

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 1 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/1 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	22.2	104.9 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.3 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.6 m <sup>3</sup> /h	35.0	6.32 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.4 m <sup>3</sup> /h	34.1	0.27 kPa g	A系： 0.13 Vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.13 vol%

\*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/1 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	18.5
2号機	循環冷却システム	運転中	17.4
3号機	循環冷却システム	運転中	15.8
4号機	循環冷却システム	運転中	26

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	4/27 9:34 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	4/24 17:08 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系\*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

\*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/1 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

## < 5 . その他 >

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。
- ・H25/5/1 9:10 免震重要棟遠隔監視室においてキャスク仮保管設備の異常を示す警報「蓋間圧力異常」および「表面温度異常」が発生。その後、現場の状況を調査し、現場のキャスク設備(蓋間圧力および表面温度)に異常がないことを、5/1 11:06 に確認。現場の設備に異常がなかったことから、警報のリセット操作を行い、問題がないことを確認。当該警報の発生については、乾式キャスク仮保管設備の監視装置に設置した警報装置の一時的な誤動作によるものと推定。なお、モニタリングポスト指示値に有意な変動は確認されていない。
- ・H25/5/1 1号機原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタ・粒子状フィルタのサンプリングを実施。
- ・H25/5/1 1号機原子炉建屋カバー排気フィルタ設備による原子炉建屋上部のダストサンプリングを実施。

### 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

#### < 地下貯水槽に貯水している水移送実績 >

- 4/23 12:24～ 地下貯水槽 No.1からH2エリアタンクへの汚染水の移送を開始。4/26 の移送をもって、汚染水の移送を一時中断。地下貯水槽 No.1からろ過水タンク No.1への汚染水の移送が終了後、4/29 9:23、地下貯水槽 No.1からH2エリアタンクへの汚染水の移送を再開。

#### < 拡散防止対策 >

- 5/1 地下貯水槽 No.1～3の漏えい検知孔内に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ戻す処置を実施。

#### < サンプリング実績 >

- 4/30 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1～4, 6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)、地下水バイパス調査孔(3箇所のうち1箇所は試料採取不可)、地下水バイパス揚水井(4箇所)、海側観測孔(1箇所)についてサンプリングを実施。分析の結果、地下貯水槽 No.1の漏えい検知孔水(北東側)の塩素濃度は490ppmであり、低下傾向が確認されたことから、念のため同日(4/30)午後に採取した試料を分析したところ、当該箇所の塩素濃度は450ppmと午前中の値と同等の値が検出。また、地下貯水槽 No.1漏えい検知孔水(北東側)の全ベータおよびガンマ核種の値についても低下傾向を確認。なお、その他の地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水、地下貯水槽 No.1～4, 6の漏えい検知孔水、地下貯水槽観測孔(地下貯水槽 No.1～3, 6周辺)および地下水バイパス(調査孔・揚水井)については前回の分析結果と比較して大きな変動はない。また、海側観測孔では新たな分析箇所である海側観測孔( )において、塩素濃度は8ppm、全ベータは検出限界値未満であることを確認。

以上